

第75回中小企業団体全国大会 in 宮城

つながる ひろげる 連携の架け橋

困難にチャレンジ！未来の創造・地球との共生
～仲間と共に希望をつなぐ成長・躍動 新たな一歩～



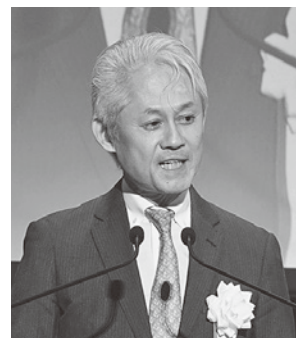
全国中小企業団体中央会・宮城県中小企業団体中央会は、10月11日(水)、宮城県仙台市・仙台国際センター展示棟において、第75回中小企業団体全国大会を開催。全国から中小企業団体の代表者約2,000名(本県からは32名)が参集した。

大会は、全国中央会森洋会長の開会挨拶で幕を開け、宮崎政久厚生労働副大臣らの祝辞が述べられるとともに、西村康稔経済産業大臣、宮下一郎農林水産大臣からのビデオメッセージが放映された。



開会挨拶をする森会長

その後、議案審議に入り、宮城県中央会佐藤勘三郎会長が議長となり、大会会場のメインステージの両翼に大会スローガンが掲げられる中で、決議事項を上程。決議に先立ち、埼玉県中央会小谷野和博会長が



議長を務める佐藤会長

「総合経済対策の早期執行と地域を支える中小企業の持続可能な成長を実現する対策の強化」と題して意見発表を行った後、満場一致で決議案は採択となった。次いで、本大会の意義を内外に表明するため、宮城県青年部連絡協議会朝比奈徹会長が大会宣言を高らかに宣した。

第75回中小企業団体全国大会スローガン

1. エネルギー・原材料・賃金について、適正な価格転嫁、安定供給の構築
2. 人材確保、生産性向上等、持続可能な成長を実現する対策の強化
3. 地域を支える中小企業を未来につなぐ事業承継対策の強化
4. 震災からの着実な復興、自然災害等からの復旧・支援対策の拡充
5. 中小企業経営の安定につながる労働・雇用・社会保険料対策の推進
6. 中小企業組合等連携組織対策の大幅な拡充

続いて表彰式が行われ、優良組合44組合、組合功労者74名、中央会優秀事務局専従者26名が受賞の栄に浴した。本県からは、優良組合として群馬県家畜商商業協同組合(桜井正喜理事長、写真左)が、組合功労者として森田繁理事長(群馬県

旅館ホテル生活衛生同業組合、写真右)がそれぞれ受賞した。

次期大会は、令和6年10月24日(木)、福井県において開催することが発表され、大会旗が森会長から福井県中央会稲山幹夫会長へ継承された。

最後に、中小企業基盤整備機構豊永厚志理事長の音頭による万歳三唱が行われ、閉会となった。

~~~~本県の受賞者~~~~



桜井氏(優良組合)



森田氏(組合功労者)



万歳三唱を行う本県からの参加者

中央会コース

本会では、全国大会に併せて中央会コースを設定した。参加者は18名。

大会当日の朝に出発し、全国大会に参加。大会終了後は、明治40年創業の老舗料亭「東洋館」にて、森田理事長の組合功労者受賞祝賀会及び懇親会を開催した。

翌日は、ニッカウヰスキー宮城峡蒸留所を視察し、二つの清流に囲まれた緑豊かな峡谷においてウイスキーの未来を切り拓く挑戦の歴史を学んだ。その後、日本三景の一つ“松島”を訪問。大型遊覧船「仁王丸」に乗り、自然が作り出した造形美の迫力を身近で感じた。以上で全行程を終了し帰路に着いた。



自然豊かなニッカウヰスキー宮城峡蒸留所



仙台国際センター展示棟での全国大会に参加



絶景の景観が広がる“松島”





## 女子職員研修会

今年度は、『関東大震災後100年、災害への備えと日本銀行の役割』を学びのテーマとし、東京都内を視察。

「そなエリア東京」「貨幣博物館」「日本銀行本店」に行ってきました！



10月17日、組合女子職員研修会を開催し、16名が参加した。本研修会は、先進地視察や他組合等の参加者との交流を通じて、組合職員としての見分を広め、日々の業務に対するモチベーションの向上を目的に、昭和60年より継続的に実施している。

最初に江東区有明の「そなエリア東京」を訪問。ここは防災体験学習施設として、地震災害後の支援が少ない時間を生き抜く知恵を学ぶ防災体験学習ツアーに参加することができ、アテンドによる説明を受けながら見学。被災地や避難所の様子を再現した実物大のジオラマ展示の中で、危険な箇所や起こり得る二次災害について学んだ。



2人乗りの震度体験機で過去の大震災の揺れを体験



個人が備えておくべき災害グッズの展示・説明

次に中央区日本橋の「貨幣博物館」を訪問。来年7月に発行される新しい日本銀行券が、偽造防止技術や最新印刷技術などの特徴とともにわかりやすく展示しており、一足早く見る事ができた。



新紙幣の企画展を見学

最後に中央区日本橋の「日本銀行本店」を訪問。国の重要文化財に指定されている本館(地下金庫、旧営業場、展示室)を、ガイドの解説付きで見学。日本人建築家が手掛けた最初の国家的近代建築である本館について、建物の外観・内観の双方にある建物の魅力とその歴史、耐震構造、地下金庫の作り等の説明を受けた。さらに、日本銀行の機能や組織、歴代総裁についても学び、参加者からは、「普段見られない場所の見学ができて貴重な体験となった」との声が挙がった。



重厚感のある内装を見学する参加者

## 理事会で上期の事業執行状況を報告

10月31日、前橋市・群馬産業技術センターにおいて理事会を開催。令和5年度上期の事業執行状況の報告を行った。また、理事会終了後、同センター所長・細谷肇氏によるセミナーを開催。さらに、センター内に開設されたDSL(デジタルソリューションラボ)の見学を行った。

### 理事会

開会にあたり、吉田勝彦会長が挨拶。「経済活動は活発化しつつあるが、業種により回復に差がみられる。群馬県の地域別最低賃金が935円となり、人手不足が深刻化する中、賃上げへの対応が求められる」と述べた。



議長を務める吉田会長

また、宮城県で開催された全国大会の大会宣言文についても触れ、「中央会として中小企業の窮状や要望を様々な機会を通じて訴えていく」と結んだ。

上期事業報告では、事務局より組合の新規事業の取組み支援やインボイス対策支援、SDGsの取組み支援などの事業成果を報告した。

また、出席者には「パートナーシップ構築宣言」ポスターを配布し、組合員、取引先に対して適切な価格転嫁を行うために役立てて欲しいと促した。



### セミナー

テーマ：他人事では無いですよ、ChatGPT

細谷所長によるセミナーでは、はじめにChatGPTによる小学3年生を想定した読書感想文の作成事例を紹介。人間と区別がつかないほどのレベルの高さであると述べた。

次いで、利用するための登録方法を、登録画面を示しながら説明。ChatGPTは、従来であれば、専門家に相談していたことも、ある程度の回答を

得ることができるかと機能性を評価。また、翻訳機能も便利で、翻訳機として利用すれば、技能実習生等を受け入れている企業などでは、外国人とのコミュニケーションツールとしても活用できると述べた。

また、本年2月には有料版が始まり、月3,000円程度の利用料で、よりの確な回答を得ることができるため、利用価値が高いと活用を呼び掛けた。



ChatGPTの利用価値を語る細谷所長

### DSL(デジタルソリューションラボ)見学

セミナー終了後、デジタルソリューションのイメージをつかんでもらう目的で開設された体験施設の見学を行った。施設内には、デジタル技術を活用した複数の装置が設置されており、参加者は、品質検査、組立作業において、人的ミスによる不良品の発生を防ぐ支援装置などの動作を見学した。



VRゴーグルを使ったシステムを紹介